

## 自治会まちづくりミーティング（要旨）

- 1 自治会名称 川島自治会連合会
- 2 日 時 令和4年6月30日（木）19時00分～20時30分
- 3 場 所 川島ライフデザインセンター
- 4 出席者 連合会長及び自治会長 21名  
市長、市長公室防災対策課長
- 5 内 容 ① 連合会長あいさつ  
② 市長あいさつ  
③ 提言による懇談  
④ 市政の説明（市長）  
⑤ 連合会長まとめのことば  
⑥ 市長まとめのことば
- 6 提 言 ① 川島花火大会の開催  
② 強固でかつ住居に近い避難施設の確保  
③ 川島大橋解体部材の活用

### 提言① 川島花火大会の開催

<川島緑町自治会連合会長>

各務原市との合併前には、渡橋付近にて花火大会が開催されてきました。

もう一度復活して、川島地区において盛大な花火大会が行われるように提言します。

濃尾花火大会は、一宮市と羽島市の共催で1993年から実施してきましたが2022年1月に廃止されました。

また、一宮市民花火大会は138タワー建設に伴い、1993年から2006年まで開催していましたが、その後廃止となりました。

上記の観点から、一宮市として花火大会は2件とも廃止となり、単独での開催を模索している様子です。そこで一宮市と協議し、是非、川島地区での花火大会の開催をお願いします。

開催となれば、138タワー・河川環境楽園への集客も多いに期待できるのではないかと思います。

<市長>

「一宮市民花火大会」は、夏休み最後の8月第4土曜日に開催され、夏の風物詩として、市内外から多くの方が訪れ親しまれておりました。市町村合併により、一宮市が尾西市・木曾川町と合併したことで、複数の花火大会を抱えることとなったため、各務原市、一宮市の両市が協議し、財政面、高速道路での弊害（煙・火の粉）、保安区域等の問題などを踏まえて整理し、廃止に至ったものです。

近年は、人流に対する安全面確保の問題や、警備費用の高騰といった財政面により花火大会を中止する自治体が増えております。

一宮市も、現状、市主催で花火大会を復活させることは考えていない模様でした。

各務原市としても、すでに「おがせ池夏まつり花火大会」や「日本ライン夏まつりロングラン花火」の2つの花火大会を地域の団体や経済団体と連携しながら開催しているなか、市単独で新たな花火大会を開催していくことは、難しいと考えております。

本来、地域のイベントは、“やりたい”という気持から盛り上がり、始まり、育ち、根付いていくものです。是非、多くの皆さんが「地域の賑わいづくり」に主体的に関わり、川島地区を盛り上げていただけることを期待しております。

我々行政も必要に応じ、皆さんの活動をサポートさせていただきます。

提言② 強固でかつ住居に近い避難施設の確保

### <笠田町西自治会長>

数十年に一度の豪雨や大規模地震の発生に備え、住民がすばやく避難できる強固で頑丈な高層の建物を指定もしくは設置し、住民の生命を守る取り組みを行うよう提言します。

現状、避難場所として川島小学校が指定されていますが、例えば、今後想定される東南海地震や数十年に一度の集中豪雨によるダムの決壊などが発生した場合、避難指定場所から遠い地区（笠田、渡、北山、小網等）からの避難は現実的に難しいと思われれます。

このため、それぞれの地区にある高層建物（例えば、水族館や消防学校等）を避難場所に指定するほか、高層施設のない地区は、公民館敷地内に強固な高層建物を設置し、避難施設として活用することを提案します。

### <市長>

昨年度、新たに作成しました市内洪水ハザードマップでは、数百年に一度程度の大雨による川島地区の浸水深は、最大で約5mとなっております。私が言うまでもありませんが、川島地区は、地理的特性として、大きな河川に囲まれた場所であるため、堤防の越水や破堤等による浸水の危険度が高く、さらに地域内のみで避難を完結することが難しい状況にもあります。特に大雨により、道路などが冠水している状況での避難は大変危険であり、最近は様々な気象情報から降雨予測が可能であるため、早めの行動をぜひお願いいたします。

そのうえで、最寄りの避難場所への避難だけが避難ではありませんので、例えば浸水などの危険性が低い地域にお住まいの親戚、知人の家などに、一時的に移動をしていただく分散避難も非常に有効です。

本市では災害の初期段階においては、小学校区ごとに原則1避難場所を指定し、災害発生の恐れがある場合や、災害が発生した際には、予め決められた職員が各避難場所へ迅速に参集することとしております。これは、限られた職員で円滑な災害対応や避難場所運営を図るため、このような体制としております。また、避難場所を1小学校区1避難場所とすることで、市民の皆様の迷いを無くす

ことや、自治会ごとの避難ルートの選定の際、最善のルートを構築することができると考えております。

以上のことを鑑み、ご提言いただいております消防学校や河川環境楽園、地域内の高層建物の建設による避難場所設置につきましては、有事の際に職員がそれらの多くの施設へ参集することは現実的には難しく、避難された方への対応が十分に出来ないことや、洪水時にはそれらの施設が水位の上昇により孤立してしまうなどの危険性も考えられます。

このようなことから、川島地区において大雨が予想される際には、まずは指定された避難場所である川島小学校へ避難をしていただくことで、職員のきめ細かい対応が可能となり、大洪水の発生前に新たに建設を予定している新総合体育館をはじめとする他の校区の避難場所への移送や、洪水が発生した場合などにも、より高層階である校舎の3階以上への避難など状況に応じた次への行動が可能となるものと考えております。

現在、自治会長や自主防災組織の方々を中心に、自治会ごとに避難路マップを作製していただき、地域の防災意識の高揚の一助とさせていただいております。この先、避難場所までの避難路の再確認や避難方法の検討など、それぞれの地域の実情にあった避難計画の作成をお願いしたいと思います。

最後になりますが、防災の基本は自助、共助、公助の3助です。災害発生の恐れがある場合や、災害が発生した際には、市民の皆様には、自助、共助の実践により避難場所までの避難をお願いし、その先公助の部分となる各避難場所の開設を市職員が一丸となって実施し、全力で皆様の安全確保に努めて参ります。

### 提言③ 川島大橋解体部材の活用

<川島緑町自治会連合会長>

川島大橋は、昭和38年8月、岐阜県と愛知県を結ぶ主要道路として建設され、1日の交通量が1万台を超えるなど、地域住民はもとより、岐阜愛知両県の経済にとっても欠かせない存在でありましたが、令和3年5月28日から橋脚異

常のため通行止めとなり、現在、橋の解体工事と新橋建設に向けた工事が進んでいます。解体された橋の一部をモニュメントとして再生されるよう提言します。

川島地区の住民の声として、川島大橋の象徴であった青いトラス橋が無くなることは寂しいです。これまで川島地区の生活と経済を支えた川島大橋の姿を何らかの形で残したいと考えます。

現在の川島大橋の姿を後世に残したい。このような声に答えるものとして、解体した鋼材を活用したモニュメントの設置、川島大橋の象徴である青いトラス橋を模したオブジェの設置、解体した鋼材を用いたベンチの設置、解体した鋼材を活用した文鎮を作成して、河川環境楽園や空宙博での限定販売などを提案します。

このような提案の効果として、川島大橋の姿をレガシーとして残すことで、橋と共に発展した地域の歴史を後世に残すことができます。また、各務原の魅力を対外的に発信できると思います。

#### <市長>

全域が木曾川に囲まれた川島地区は、昔から市民の生活と川は密接な関わりをもってきました。

当時は船の渡しで行き来していましたが、洪水等が発生すると渡ることができないため、橋の設置は地元の悲願であったと聞いております。

昭和33年の河田橋の完成や昭和38年の川島大橋の架橋により幹線道路が整備されるなど、街は大きく発展を遂げてまいりました。

しかし、令和3年5月21日の豪雨により川島大橋が被災し、地域の皆様に大変なご不便をお掛けしております。

一刻も早く日常を取り戻せるよう、現在、国土交通省により歩行者用の仮橋の開通や新橋の完成に向けて工事が進められているところです。

さて、ご要望の川島大橋の象徴であったトラス橋の部材の活用について、市も橋と共に発展してきた街の歴史を後世に伝えることができるよう、何らかの形で活用していきたいと考えております。

そこで、まずは、地元との意見交換の場を設け、実際にどのようなものを何処に造るのか等について議論していく事や、例えば、地元で美術造形等に詳しい方がお見えでしたら是非ご協力をいただくなど、皆さんと一緒に後世に伝えることができる物となるよう、国や県とも調整を図りながら取り組んでまいります。